

はじめて学ぶ 乳児保育

〔編著者〕 志村聡子

〔著者〕 塩崎美穂・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子
柳井郁子・小柳康子・宇都弘美

第四版



同文書院

Authors

執筆者紹介

【編著者】

志村 聡子（しむら・あきこ）
立正大学教授

〈Part 1〉 Lesson01～03, 05～06,
〈Part 2〉 Lesson11
〈Part 3〉 Lesson01, 03～04
Column02, 06, 08, 09, Album01～04
ワークシート①～⑦

【著者】 ※執筆順

塩崎 美穂（しおさき・みほ）
東洋英和女学院大学教授

〈Part 1〉 Lesson12
〈Part 2〉 Lesson12
Column01, 05, ワークシート⑧

藤枝 充子（ふじえだ・みつこ）
明星大学教授

〈Part 1〉 Lesson04, 07

渡邊 美智子（わたなべ・みちこ）
元・近畿大学九州短期大学准教授

〈Part 1〉 Lesson08～09, 13～14
Column03

坂田 知子（さかた・ともこ）
埼玉学園大学教授

〈Part 1〉 Lesson10～11
〈Part 3〉 Lesson02
Column04

柳井 郁子（やない・いくこ）
洗足こども短期大学教授

Column07

小柳 康子（こやなぎ・やすこ）
福岡大学教授

〈Part 2〉 Lesson01～04, 09

宇都 弘美（うと・ひろみ）
鹿児島女子短期大学教授

〈Part 2〉 Lesson05～08, 10

Introduction

まえがき——第四版によせて

本書は、保育士を目指している方々を念頭においてつくられた、乳児保育について学ぶためのテキストです。乳児期の子どもたちの保育を担当するために知っておくべき内容を厳選するとともに、レイアウトやイラストを工夫して、よりわかりやすく伝えることをめざしました。読み手に初学者を想定し、難解な語句を避けるように配慮したことも大きな特徴のひとつです。

本書は、「理論編」「実践編」「アイディア集」「ワークシート」の各部分から構成され、1つひとつのテーマが簡潔にまとめられています。少し息抜きになるような「コラム」もあります。どこからでも読み進められますので、気軽に手にとって、すみずみまで活用してください。「ワークシート」には、書いて覚える穴埋め課題と、連絡帳を書く模擬体験ができる課題とが含まれています。「ワークシート」は、授業担当の先生の指示に基づいて提出するなどの活用方法もあるでしょう。

「乳児」は、児童福祉法において「満1歳に満たない者」と定義され、一般的にもいわゆる0歳児のことを指しているようです。ですが、本書では、0歳児のみならず、1歳児と2歳児についても視野に入れて内容を構成しました。つまり、3歳未満児を「乳児」としてとらえ、その保育に求められる知識や技術を盛り込みました。こうした背景もあって、本書では、状況に応じて「赤ちゃん」「乳児」「子ども」が混在して使われています。

乳児保育が行われる場所は保育所だけでなく、認定こども園や小規模保育施設、事業所内保育施設など多岐にわたりますが、本書で「保育所」と示している場合、乳児を受け入れて保育するすべての場所を想定しています。また、保育所で保育を行う職員は保育士、幼保連携型認定こども園で保育を行う職員は保育教諭ですが、本書では原則として「保育者」を用い、保育士や保育教諭も含んだ立場としています。

本書が出版されてから、全国の多数の保育者養成校においてテキストとして採択していただき、多くのご担当の先生方や学生の皆さんが本書を活用してくださいました。心から感謝申し上げます。

今回の第四版改訂では、関連の法律についての加筆修正を行い、安全管理の項で内容を充実させました。改訂の都度、各項の統計情報等について更新を行っていることは言うまでもありません。著者の先生方のお力添えに、感謝申し上げます。

小さな子どもたちの育ちを支えるために、本書が学生の皆さんの学びの一助となるよう願っています。

（株）同文書院の五十地佳之さん、石井智子さんをはじめ、本書のためにご協力くださいましたすべての皆さまに、心から御礼申し上げます。

令和7年2月1日

編著者 志村 聡子

Contents

もくじ

まえがき

〈Part 1 理論編〉

Lesson01	乳児保育はなぜ必要か——社会的背景から考える	2
	01：保護者の就労を支える乳児保育	2
	02：保護者の子育てを支える乳児保育	4
Lesson02	乳児保育の歴史と現状	6
	01：乳児保育の歴史	6
	02：乳児保育の現状と課題	8
◆Column01	乳児院とは——乳児が暮らす福祉施設の現状	14
◆Column02	認定こども園とは	16
◆Album01	せんせい、だいすき	21
Lesson03	知っておきたい法律のいろいろ——児童福祉法、こども基本法など	22
	01：児童福祉法について知る	22
	02：児童福祉施設の設備及び運営に関する基準とは	24
	03：こども基本法とは	27
	04：労働基準法が示す女性への配慮	29
	05：育児・介護休業法について知る	30
Lesson04	『保育所保育指針』とは	32
	01：『保育所保育指針』の目的	32
	02：『保育所保育指針』（第4次改定）の方向性と3歳以上児の保育の内容の共有化	33
	03：『保育所保育指針』で押さえておきたい内容	36
Lesson05	『保育所保育指針』における乳児保育のポイント①	42
	01：改定された保育所保育指針	42
	02：指針にみる保育所の役割	44
	03：「第2章 保育の内容」における「ねらい」と「内容」	44
	04：求められる「個別的な計画」	46

Lesson06 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント②	48
01：保育の「ねらい及び内容」の示し方ー「視点」と「領域」	48
02：保育の「ねらい及び内容」を年齢別にとらえる①	49
03：保育の「ねらい及び内容」を年齢別にとらえる②	50
04：さまざまな意味が混然一体となっている子どもの生活	52
05：まとめにかえて一大切にしたい「養護」	54
◆Album02 せんせい、あそぼうよ	56
Lesson07 人生の基礎としての乳児期——ポルトマンの考え方に学ぶ	58
01：高等哺乳類の新生児——「巢立つもの」と「巢に座っているもの」	59
02：「生理的早産」とは——直立姿勢、言語、洞察力ある行為	60
03：「生理的早産」であることの意味	60
04：「生理的早産」から学ぶこと	61
Lesson08 乳児のこころの発達——身近な人との絆を育む過程	62
01：能動的存在である赤ちゃん	62
02：子どもの「人見知り」	63
03：不思議な子どものこころ	65
Lesson09 乳児のことばの発達——思いを伝え合う手段を得る過程	68
01：ことばの発達の道筋	68
02：ことばの発達に必要な力	70
03：ことばを育てよう	72
◆Column03 人と関わる楽しさを伝える「おもちゃ」	74
Lesson10 乳児のからだ——からだの発育と運動機能の発達	76
01：からだの成長	76
02：運動能力の発達	80
◆Column04 乳児の睡眠について	84
Lesson11 乳児保育における複数担任制——保育者同士の連携のあり方	86
01：乳児保育における複数担任制	86
02：保育者同士の「同僚性」を高める	89

Lesson12	保育所で過ごす1日の流れ——年齢別デイリープログラム（日課表）	92
	01：保育所の1日	92
	02：保育の計画を立てる	93
	03：0歳児クラスのデイリープログラム	94
	04：1歳児クラスのデイリープログラム	96
	05：2歳児クラスのデイリープログラム	98
	06：デイリープログラムの理解に向けて	100
	07：感染対策について	100
	08：計画や記録におけるICTの活用	101

◆Album03	おにわであそぼう	103
◆Column05	乳児保育担当保育者にお話を聞きました	104

Lesson13	保護者との連携を考えよう——乳児をとりまく協力関係をめざして	106
	01：ことばの壁の解決	106
	02：虐待の発見と対応	107
	03：保護者に寄り添う	110

◆Album04	おさんぽたのしいな	113
◆Column06	宗教について考える——保護者との信頼関係のために	114

Lesson14	発達の遅れとむき合う——保護者を支える	116
	01：発達の遅れに気づく	116
	02：保育者からの発信のしかた	116
	03：保護者を支える	117

◆Column07	育休明けママの子育て日記	120
-----------	--------------	-----

〈Part 2 実践編〉

Lesson01	だっこのしかた・おんぶのしかた——乳児とのふれ合いの基本を学ぶ	128
	01：よこ抱きの方法	128
	02：たて抱きの方法	129
	03：おんぶの方法	130

Lesson02	乳児の衣服の基礎知識——衣服の特徴と扱いを知る	132
	01：衣服の選び方	132

Lesson03	衣服の着せ方・脱がせ方——着替えの配慮のポイントを学ぶ	134
01:	おおむけの姿勢での着替え	134
02:	座った姿勢での着替え	135
Lesson04	おむつ替えと「おむつはすれ」	138
01:	おむつ替え	138
02:	「おむつはすれ」のために	141
Lesson05	授乳のしかたとその準備——人工乳・冷凍母乳の扱いを学ぶ	142
01:	調乳の方法	142
02:	冷凍母乳の取り扱い	143
03:	授乳のしかた	144
Lesson06	離乳食の基礎知識——離乳に向けた食事の進め方を知る	146
01:	離乳について	146
02:	離乳食の介助	148
03:	食物アレルギーへの対応	150
Lesson07	沐浴のしかた・清拭のしかた——乳児のからだを清潔に保つために	152
01:	沐浴の方法	152
02:	清拭の方法	155
Lesson08	保育環境の衛生管理——子どもの生活の場を清潔に保つために	156
01:	保育室内外の衛生	156
02:	子どもたちの私物の清潔	157
Lesson09	かみつき・ひっかきへの対応——トラブルの背景と保護者との連携について	158
01:	かみつき、ひっかきなどのトラブルへの対応	158
Lesson10	乳児保育における安全管理①——乳児期特有の病気とくすりの扱いを学ぶ	160
01:	乳幼児突然死症候群（SIDS）	160
02:	乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）	161
03:	保育所におけるくすりの扱い	162

Lesson11	乳児保育における安全管理②——乳児を事件・事故から守る方法を知る	164
01：	日常生活における危険	164
02：	人数確認による子どもの把握	168
03：	不審者の侵入を防止する	172

Lesson12	連絡帳の書き方——子どもの育ちを保護者とわかち合う	174
01：	守秘義務という保育者の専門性	174
02：	信頼関係の構築に向けて	176
03：	連絡帳を書いてみよう	176

◆Column08	新型コロナウイルス感染症と求められる対応	178
-----------	----------------------	-----

〈Part 3 アイディア集〉

Lesson01	遊びのアイディアと歌遊び——乳児の笑顔を引き出すために	184
01：	「いない いない ばあ」をアレンジ	184
02：	歌って遊ぼう わらべうた	185
03：	みんなで歌って楽しもう	187

Lesson02	ふれ合い体操——乳児との絆を深めるために	190
-----------------	-----------------------------	------------

Lesson03	おすすめ絵本——乳児の創造力を育むために	196
-----------------	-----------------------------	------------

◆Column09	絵本と出会う「ブックスタート運動」	198
-----------	-------------------	-----

Lesson04	おすすめ乳児保育関連グッズ——あると安心・便利なすぐれもの	200
-----------------	--------------------------------------	------------

さくいん		203
------	--	-----

〈巻末付録〉

- ・ワークシート①：児童福祉法／児童福祉施設の設備及び運営に関する基準／労働基準法／育児・介護休業法
- ・ワークシート②～⑦：保育所保育指針 第2章 保育の内容
- ・ワークシート⑧：連絡帳を書いてみよう

乳児保育はなぜ必要か

——社会的背景から考える

乳児保育は誰に必要とされているのでしょうか？ 乳児保育と聞くと、まず、かわいいう赤ちゃんの姿を思い浮かべられるかもしれません。でも、赤ちゃんにむき合う前に、赤ちゃんにもっとも近い存在である保護者について考え、乳児保育が求められる背景をとらえていきましょう。

01 | 保護者の就労を支える乳児保育

❖子どもを産んだ女性も仕事を続ける

赤ちゃんを授かったと知ったとき、女性はパートナーとその喜びをわかち合います。そして2人が考えるのは、赤ちゃんを育てる環境についてです。女性が職業を持って働いている場合、仕事を続けるか、職場でどれだけ休みがとれるかなどについて、考えることになります。パートナーである男性が育児休業をとれるかどうか、調べてみることもあるでしょう。さらに、近所に乳児保育を行っている保育所があるかどうか、調べてみたりします。その乳児保育の日常を見学させてもらい、生まれてくるわが子を預けるのにふさわしい環境かどうか確かめることもするでしょう。

近年、男女共同参画¹⁾の考え方が広がり、結婚して子どもを産んでも仕事を続けたいと考える女性が増えてきました。そうした女性たちの生き方に呼応して、赤ちゃんを預かって保育をする営みが求められることになりました。つまり、乳児保育が求められる社会的な背景には、女性たちが子どもを産んでも仕事を続けたいと考える意欲の高まりがあります。

❖労働力率が示す女性のライフスタイル

「M字型曲線」あるいは「M字型カーブ」ということばを聞いたことがあるでしょうか。それは、日本女性の労働力率²⁾を示したグラフのことで、その形からそう呼ばれてきました。グラフの形が、20代女性の労働力率が高くなったあと、30代女性では落ち込み、その後40代女性では再び高くなっていました。これは、30代女性が子どもを産んだあとに仕事を辞めて家事・育児に専念し、子どもがある程度成長してから40代で再び仕事復帰するというライフスタイルを象徴してい

1) 性別にとらわれず、男女が能力と個性を発揮できる社会をめざし、1999(平成11)年に男女共同参画社会基本法が制定された。この法律を基盤として、男女が平等に活動するための取り組みがめざされている。

2) 人口に対する労働力人口の比率であり、労働力人口÷人口×100として算出する。男女別、年齢別など、統計の取り方によって対象のライフスタイルをとらえる指標ともなる。

せんせい、だいすき

本を読んでくれる先生、一緒に遊んでくれる先生…。大好きな先生と過ごすうち、子どもたちはいろいろな力を育んでいるようです。



▲先生の笑顔に引き込まれてしまう子どもたちです。絵本の世界に集中することで、自然とお話を聞く力が育っています（1歳児クラス、10月）。



▲先生も積み木とともに遊び、子どもたちに楽しい遊び方を伝えます。子どもたちは先生のまねをするなかで、自分の遊び方をつかみます（2歳児クラス、7月）。



▲テーブルと椅子の設定で、先生の読み聞かせに集中できるようになりました。このひとときを子どもたちは心待ちにしています（2歳児クラス、11月）。



▲おしりには、新聞紙を引き裂いてつくったしっぽが。「しっぽをとっちゃうぞ!」「きゃー」。先生のおどけた姿に、子どもたちは笑いながら逃げました（2歳児クラス、11月）。

表 6-1 保育内容を年齢別にとらえる①領域「健康」を中心に（志村作成。網掛けは志村による）

0 歳児 健やかに伸び伸びと育つ	1 歳児・2 歳児 健康	3 歳以上児 健康
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
(ア) ねらい ① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ② 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 ③ 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。	(ア) ねらい ① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。	(ア) ねらい ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。
(イ) 内容 ① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。 ② 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。 ③ 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。 ④ 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。 ⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。	(イ) 内容 ① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。 ② 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。 ③ 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。 ④ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。 ⑤ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。 ⑥ 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。 ⑦ 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。	(イ) 内容 ① 保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 ② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ③ 進んで戸外で遊ぶ。 ④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 ⑤ 保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 ⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。 ⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 ⑧ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 ⑨ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

◆デイリープログラム 0歳児クラスの一例

9人の子どもに3人の担任と1人の副担任²⁾がいる0歳児クラスの一例です。高月齢児（生後11ヵ月～1歳半くらい）担当、中月齢児（生後8～10ヵ月くらい）担当、低月齢児（生後4～5ヵ月くらい：表中の㊦に相当、生後6～7ヵ月くらい：同、㊦に相当）担当と、子どもの月齢に合わせた担当制を想定しています。

時間	流 れ			保育者A (高月齢児3人担当)	保育者B (中月齢児3人担当)	保育者C (低月齢児3人担当)
	高月齢児	中月齢児	低月齢児			
7:30	開園 順次登園 早朝保育 (人数が少ないので、1歳児・2歳児と合同)	子どもは同じ時間に登園してきません。	授乳	7:15 出勤(早番) おしりふきあため器準備・おもちゃ消毒・哺乳びん煮沸 受け入れ 検温・視診・連絡帳確認	受け入れ時には、子どもの健康状態などについて保護者とながやかに語らうなかで、信頼関係を築きます。 保育者は基本的に時差出勤です。まず連絡帳を確認し、保育に入ります。	授乳
9:00	0歳児のみの保育となる 遊び	このあたりで、おおよそみんなそろいます。	授乳	受け入れ・検温・視診・連絡帳確認 遊びを見守る	8:45 出勤(中番) 受け入れ・検温・視診・連絡帳確認 睡眠介助・遊びを見守る	8:45 副担任D出勤(中番) 受け入れ・検温・視診・連絡帳確認 睡眠介助・遊びを見守る
10:00	おやつ 散歩	離乳食+授乳 ㊦離乳食+授乳	この日の高月齢児の主活動として、機嫌のよい子どもはベビーカーに乗り、近所の公園にお散歩に行きます。	おやつへの介助 散歩	離乳食+授乳	離乳食+授乳
11:00	食事	睡眠介助	食事への介助	状況に応じて各担任を補助していきます。	10:45 出勤(遅番) 連絡帳確認・副担任と情報交換 睡眠介助・遊びを見守る	睡眠介助・遊びを見守る
12:00	睡眠	㊦授乳	連絡帳記入 休憩室にて休憩(食事)	連絡帳記入 休憩室にて休憩(食事)	授乳	授乳
13:00	遊び	㊦授乳	保育スタッフが連携して、定期的に子どもの呼吸を確認			授乳 休憩室にて休憩(食事)
14:00	おやつ 遊び	離乳食+授乳	おやつへの介助 遊びを見守る	離乳食+授乳	中月齢児への対応(離乳食+授乳) 連絡帳記入	中月齢児への対応(離乳食+授乳) 連絡帳記入
15:00		㊦授乳	個人記録記入・おむつたたみ・おもちゃづくり・日誌記入 15:45 退勤	個人記録記入・床ふき 17:15 退勤	授乳	授乳
16:00	順次降園 延長保育 (1歳児・2歳児と合同)				延長保育の遊びを設定する 延長保育	延長保育の遊びを設定する 延長保育
19:00	閉園				個人記録記入・室内整頓・施錠 19:15 退勤	個人記録記入・室内整頓・施錠 19:15 退勤

- いつでも必要なときに、おむつ替えや検温をします。水分補給も欠かさないように気をつけます。
- 上記の「流れ」には、低月齢児と中月齢児の「睡眠」と「遊び」が記載されていません。この時期の子どもは、各自のペースで寝たり起きたりをくり返すためです。保育者も随時、「睡眠介助」と「遊びの見守り」を行います。
- 低月齢児の「睡眠介助」では、入眠時の対応はもちろんですが、子どもが急に目覚めたときにも傍らで対応し、再眠に誘います。



Column

06

宗教について考える

——保護者との信頼関係のために

❖「宗教」はこわい？

保育の現場では、多様な保護者に出会います。保護者の多様性について考えるとき、忘れてはならないのが宗教に関わる問題です。宗教と聞くだけで「こわい」「わからない」と言って拒絶反応を示す人もいるようですが、宗教は個人が人生や世界をどうとらえるかという世界観と大きく関わっているのですから、先入観を持たずに関心を深めたいものです。

一般的に、日本人の宗教観はあいまいであるといわれます。初詣は神社へ出向いて拝み、結婚式はキリスト教式、弔いの儀式は仏教というように、信仰の対象を限定しない人が多いようです。その一方で、信仰を理由にして厳格な生活様式を貫く人もいます。日本国憲法では、信教の自由を保障しており、信仰に基づく生活様式はいずれも尊重されなくてはなりません。ただ、多様な背景を持つ人々が集う福祉施設や学校では、個人の権利と集団生活の両立を果たすために、さまざまな努力が求められることになります。

❖事前に知らせて、話し合う

たとえば、保育所の子どもたちを連れて散歩に出かけ、近くの神社に思いつきで立ち寄ったとします。悪気のない行動であったかもしれませんが、それを後から知った保護者から、「信仰と反することなので止めて欲しい」という申し出が寄せられる可能性があります。外国籍の保護者で、厳格に自身の信仰を守っている場合も同様です。こうした誤解を未然に防ぐためには、あらかじめ散歩のルートを保護者に伝えておき、神社に立ち寄ることを明らかにしておけば、保護者からの申し出を引き受ける余地が生まれ、対応することができます。

ただ、神社仏閣の建造物や樹木などの美しい風景に開放感を得ることもありますし、境内にある公園の固定遊具で子どもたちを遊ばせたい場合もあるでしょう。

こうした場合には、風景に接することや固定遊具で遊ぶことなどの意味について説明して理解を求める一方で、神殿で拝まないことを約束して安心してもらうことも大切でしょう。

だっこのしかた・おんぶのしかた

——乳児とのふれ合いの基本を学ぶ

01 | よこ抱きの方法

❖よこ抱きのポイントと注意点

- ・首がすわる前の赤ちゃんを抱くときは、後頭部を腕で支えるよこ抱きにします。
- ・抱く前の準備として、安全・清潔のために、指輪、ブレスレット等の装飾品や時計をはずし、爪を短く切り、髪や服装を整えます。
- ・よこ抱きは、抱く人の顔が赤ちゃんによく見える抱き方ですから、抱いている際の表情も伝わります。笑顔で声をかけながら抱きましょう。

①頭の両側に手を添えて



目線を合わせて声をかけ、頭の下に両手を添え、片方の手を頭の下に差し入れて首を支える。

②片方の手を滑らせて



①で差し入れた手と反対の手を首の下に滑り込ませて頭を支え、①で支えていた手ははずし、その手を股の間から差し入れて、おしりを支えそつと抱き起こす。

③首と腰を支えてよこ抱きに



片方の手を反対の肩の下の背中の方にずらし、乳児の頭と首をひじで支え、もう片方の腕で腰部を支える。足は自由に動かせるようにしておく。

・寝かせ方



寝かせるときは、頭と腰部を支え、おしりを下ろしてからからだを横にし、腰を支えていた手をそつと抜く。最後は、両手で頭を支えながら静かに頭を下ろす。

02 | 人数確認による子どもの把握

❖子どもの人数を正確に把握する

クラスの出席者の人数は日々変わるので、ホワイトボードなどを活用して、正確な出席者の人数を把握します。給食やおやつ準備のために人数を知ることが必要になりますが、それだけでなく、子どもの所在を的確に把握するためにも欠かせない基本的な作業です。子どもたちの行動範囲が広がると、目を離れたときに保育室を出て行ってしまうことがあります。折を見て人数を数え、全員揃っていることを確認します。

2005（平成17）年8月10日、埼玉県上尾市の保育所において、4歳の子どもの本棚のなかに入り、そこで死亡するという事故が起きました。子どもが遊んでいて体調を崩し、熱中症になったことに加えて、保育者が子どもの所在を把握していなかったことが重なり、悲劇となってしまいました。

保育者が指導計画に基づき、普段生活する保育室とは異なる環境に移動して活動することがあります。そうした場合も、部屋に到着したとき、部屋を出発するときなどに人数を数え、全員が揃っていることを確認します。なじみのない環境で探索しているうち、奥まで入り込んでしまい、おとなの目に触れなくなってしまうことがあります。だいたい揃っていればよいのではなく、1人でも欠けていたら大変なことだということを決して忘れてはいけません。

❖園外への移動でも

子どもたちの生活に潤いを持たせたいと、園外に出かけることもあります。園外では、なおさら行動範囲が広がるので、十分なスタッフの数が必要になります。歩いて移動する場合には、車の往来の激しい道は避けるよう配慮します。

2007（平成19）年7月27日、福岡県北九州市の保育所で、遠足から戻ったワンボックスカーに2歳の子どもの置き去りにされ、熱射病で死亡するという事故が起きました（右ページ記事参照）。事故は、子どもが全員車から降りたかどうか、保育者が把握をしていなかったために起こったものと見られています。この事例でも、子どもの人数を数えて所在を把握していれば、事故は回避されたものと考えられ、私たちはこうした痛ましい事故から学ばなければなりません。

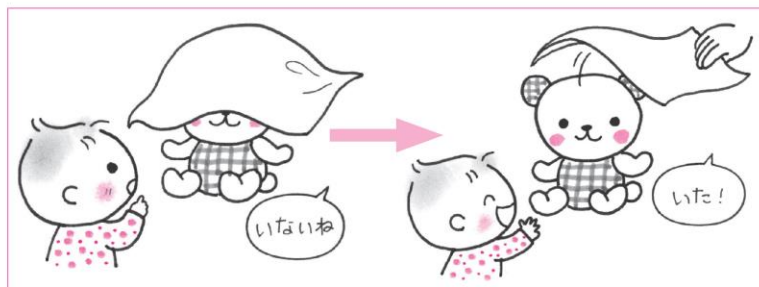
遊びのアイデアと歌遊び

——乳児の笑顔を引き出すために

01 | 「いない いない ばあ」をアレンジ

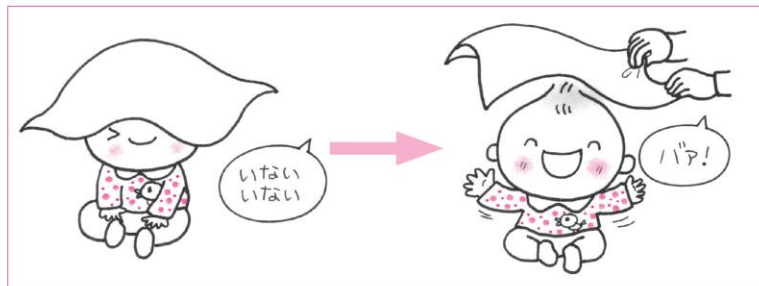
顔を隠して「いない いない」、ちょっと間をおいて「ばあ」と顔を出す、誰でも知っている「いない いない ばあ」の遊びです。顔を手で隠す、からだ全体を見えなくする、布で覆って隠すなど、状況に応じた「いない いない ばあ」を編み出してみましょう。布を用いると、子ども自身も布をはがして遊びに参加できます。姿が現れたときには「いた！」と、ともに喜びましょう。

・布で隠して「いない いない ばあ」



ぬいぐるみを布で隠して「いないね」、布をはがして、「いた!」。子どもが布をはがせそうだったら、子どもの手が布に届く距離かを考えて。

・子どもに布をかけて「いない いない ばあ」



恐怖心を与えないよう、目にかからないように頭に布を乗せることから慣らしていく。